

# 慶應看護100年記念事業への協力

すずき ゆき  
鈴木 有紀

(湘南藤沢メディアセンター)

## 1 はじめに

慶應義塾における看護教育は、北里柴三郎博士が1918年に開設した医学科附属看護婦養成所に始まり、2018年に看護医療学部として100年の節目を迎えた。同年5月12日には信濃町キャンパスにて慶應看護100年記念式典・祝賀会（以下「記念式典」とする）が挙行された。この慶應看護100年を迎えるにあたり、看護医療学部と慶應看護同窓会「紅梅会」は2013年度に合同委員会を組織し、様々な記念事業<sup>1)</sup>を行ってきた。本稿ではこの事業への看護医療学図書室（以下「図書室」とする）としての関わりについて報告する。

## 2 経緯

2013年度に慶應看護100年記念事業委員会のもと、慶應看護100年史編纂委員会（以下「編纂委員会」とする）が組織され、看護医療学部の教員のほか、学部の要請を受けて図書室の職員も編纂委員に加わることになった。図書室は年史の編纂において、主として歴史資料のアーカイブとデジタル化に携わったほか、関連して広報活動にも協力した。

## 3 年史の編纂

編纂委員会では5月12日の記念式典にあわせて『慶應看護100年史』<sup>2)</sup>（ハードカバー、365ページ、3,000部）を発行した。またこれに先立ち3月に、写真を中心にしたコンパクト版として『写真でみる慶應看護100年』<sup>3)</sup>（ソフトカバー、47ページ、5,000部）を発行した（図1）。編集作業は教員と慶應義塾大学出版会担当者の主導のもとで行われ、図書室は入稿および校正用のクラウドストレージサービスの管理、掲載候補となる写真のデジタル化、事実確認のための文献調査、執筆者への参考資料提供、原稿校正等に協力した。



図1 『慶應看護100年史』(左)と『写真でみる慶應看護100年』(右)

## 4 歴史資料のアーカイブとデジタル化

編纂委員会では、学内各所で保管されていた慶應看護の歩みを伝える歴史資料の収集にあたった。これは年史編纂の基礎資料として役立つのみならず、次世代へ継承することを目的としたもので、図書室は資料目録の作成やデジタル化を担当した。紅梅会事務局からは、同窓会報にあたる紅梅会会報（1934年より発行）および卒業アルバム（約110点、最も古いものは1924年）を譲り受けた。紅梅会会報は製本版の複製を作成したうえで、紅梅会Webサイトで公開されていない第89号（2008年）までのデジタル化を行った。古い卒業アルバムは中性紙の保管箱に収めたほか、個人から寄贈されたスナップ写真なども含め『写真でみる慶應看護100年』への掲載候補を中心に約90点をデジタル化した。また、1917年の設置認可から短期大学に至る学校設立・廃止に関する文部省（当時）等への届出書類をはじめ、学則変更、学事関連の記録、学生名簿など学校史料のデジタル化も行った。なお、デジタル化自体は全て専門業者に委託したが、紅梅会会報や学校史料については史料的価値を考慮し、図書室にて記事や文書の単位で目次データを付与した。デジタルデータは編纂委員をはじめ記念事業関係者で共有し、年史編纂や後述する広報活動に活用した。

看護医療学部は2001年に湘南藤沢キャンパスに開設されたが、その前身の看護短期大学（2003年に閉校）までの間、慶應義塾の看護教育は主に信濃町キャンパスで行われた。紅梅会の現事務局も同キャンパスに置かれているため、歴史資料には同キャンパスで保管されているものが多く、離れた2つのキャンパス間での資料の移動や確認にかなりの労力を要した。

なお、記念式典で上映され大変好評だった動画の作成には、今回収集した歴史資料も活用された。完成した動画は看護医療学部のWebサイト<sup>4)</sup>で公開されている。

## 5 広報活動への協力

記念式典に向けて『写真でみる慶應看護100年』のエッセンスを伝える趣旨で、デジタル化した写真を年代毎に並べたパネルが作成された(図2)。これらのパネルは看護医療学部校舎や信濃町キャンパスのほか、慶應連合三田会大会、SFC Open Research Forum等のイベントで掲示された。



図2 広報用の写真パネル(一部)

収集した資料を展示することを目的に2016年度に看護医療学部で購入した展示ケースは、現在は図書室内に設置されている。古い卒業アルバムのほか、歴代の校章やナースキャップ、制服のレプリカが展示されており、新入生やオープンキャンパスの来場者などが目を輝かせてケースを覗いていく。なお、このケース展示とは別に、図書室として、記念式典にあわせて小規模ながら、慶應看護の各年代の刊行物や日本の看護史に関する資料を展示した(図3)。看護医療学部第1学年には毎年春に看護や慶應義塾の歴史を学ぶ必修科目が設置されているため、特に1年生が資料を手取る姿が度々見られた。



図3 図書室内での記念小展示

## 6 今後の課題

編纂委員会は記念事業のための一時的な組織であるため、収集した資料やデジタルデータの今後の管理体制が課題となる。図書室の蔵書に組み入れたものも多いが、図書以外の形態のものや、学校の業務資料など内容的に図書室での管理や閲覧に適さないものも多い。そのため、資料およびデジタルデータの管理や閲覧申請等に対応する窓口として、看護医療学部内に常設の委員会を作る方向で検討が進んでいる。次の周年事業に備える意味でも、収集した資料やその所在についての情報を一元化しておくことは重要であり、今後も図書室として資料目録の整備には継続的に関わっていききたい。

年史編纂のために行った文献調査や卒業生等へのインタビューや座談会、そして編纂委員を中心とした多くの教員との交流を通じて、慶應看護に関わってきた様々な人の思いに触れ、100年という歴史の重みを感じることができた。そして図書室もまた、その歴史と共にある。次の100年を見据えることは簡単ではないが、学生・教職員に学びつつ、未来を先導できる人材育成・研究活動を支えるより良い環境づくりに努めたい。

この記念事業では、教員や看護医療学部の事務職員など様々な立場のメンバーが協働する過程で、いわゆる図書館の日常業務とは異なる役割、知識を求められることが多かった。並行して記念事業が進んでいた医学部のほか、参考となる様々な情報をご提供いただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げる。

### 注

- 1) 慶應義塾大学看護医療学部. “慶應看護100年”.  
<https://www.nmc.keio.ac.jp/100th/index.html>,  
(参照 2018-06-26).

- 2) 慶應看護100年史編纂委員会編. 慶應看護100年史. 藤沢, 慶應義塾大学看護医療学部, 2018, 365p.
- 3) 慶應義塾大学看護医療学部慶應看護100年史編纂委員会編. 写真でみる慶應看護100年. 藤沢, 慶應義塾大学湘南藤沢学会, 2018, 47p.
- 4) 慶應義塾大学看護医療学部. “慶應義塾大学看護医療学部”. <https://www.nmc.keio.ac.jp>, (参照 2018-06-26).